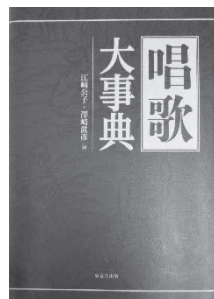


## 唱歌大事典

唱歌の誕生から教育現場における取扱い等、  
唱歌を体系的に知るための基本資料。



### ■ 書誌事項

江崎公子、澤崎眞彦編 東京堂出版 2017  
[767.7/248]

### ■ 解説

本書は明治以降、昭和 22 年 (1947) までの唱歌集・教科書の中から延べ 2,534 曲を収録している。全四章及び附章から成り、第一章から第三章までは時系列に表記している。第四章には幼稚園・女学校用の唱歌集、家庭向け唱歌を含んだ代表的な唱歌集等を掲載し、巻末に全掲載曲の五十音別索引 (歌い出し付)、国内作詞家・作曲家五十音別索引、国外作詞家・作曲家五十音別索引を所収している。

本書の特色の 1 つに、収録した唱歌集は初版本 (初版本が入手できない場合は修正再版以降の刊本等) を用いたことが挙げられる。その理由について編者・澤崎眞彦は、「刊行当時の編纂者たちの意図や、当時の実態を可能な限り再録しておきたかったからである。したがって歌詞だけでなく、「緒言」や「序」「例言」なども余すところなく記録することにした。」と述べている。澤崎によると、当時の文部省が戦後に実施した「黒塗り教科書」、「暫定教科書」、そして昭和 22 年 5 月から 7 月にかけて発行した最後の国定教科書をも、本書の収録範囲としたことにより、「近代日本の唱歌教育を日本人がどのような視点で見つめ直したかを改めて見極める貴重な資料でもあると考えた」としている。

唱歌の概要にとどまらず、唱歌という観点から明治期以降の日本の教育を検証する際、本書は基本資料であるといえる。